

# 屋敷の森

まんぎょう  
~万行町~

今では小さな森だが、民話には、三右エ門の屋敷はとても大きく裕福であったが、天狗との約束を破ったために廃れてしまったとある。

また、今の報国町周辺は万清園という公園であった。実はこの公園は宮本氏という方の屋敷の庭で、たいへん見晴らしの良いことで人々が集まることから公園となったという話をうかがったことがある。

個人宅の庭が公園と呼ばれるほどであったことに驚かされた。

三右エ門の話はこの万清園より古いと思われることから、かつては広大な敷地に天狗の森と呼ぶにふさわしい、大木が生い茂る場所であったのだろう。

森は神様が降りてくる目印であるという話や、神様がいる木の話なども残っている。

こうした話は、森が昔から身近で、大切なものとされてきた現われであろう。

森の木々が過ごした時間を思いながら竹垣と森に囲まれた道を歩いてゆくと何か神聖な感じを受ける。長い年月を静かに見守ってきた森の木々。この森は万行遺跡の時代から残っているのだろうか？

森の木々はこれから代を重ね七尾の歴史を見守っていくのだろうか。

国内最大級の古墳時代初期（約1300年前）の掘立柱建物（倉庫群）が見つかったことで、平成15年8月27日、国史跡（史跡名勝天然記念物）に指定された万行遺跡。この遺跡は、これまでに例のない規模の大型掘立柱建物と方形区画が検出され、能登地域を越えた強大な勢力が関わった可能性も示唆され、当時の政治や社会を知

る上で極めて重要であるとされている。

万行遺跡に代表される万行町は縄文土器や土偶、石棒・石冠などの形の珍しい石器が多数発見されていることで、戦前から遺跡があることで知られていた。

このことは万行町が市内でも古くからムラとして栄えていた証拠だとされている。

## 万行町周辺マップ



## 今月の 主な内容

CONTENTS

平成17年度 一般会計予算	4
市役所電話番号一覧	6
国宝松林図屏風 長谷川等伯展	12